

百人一首 上の句と下の句を線で結びましょう ⑨

筑波嶺の
峰より落つる
男女川

人はいさ
心も知らず
ふるさとは

陸奥の
しのぶもぢぢり
誰ゆゑに

夏の夜は
まだ宵ながら
明けぬるを

白露に
風の吹きしく
秋の野は

玉の緒よ
絶えなば絶えね
ながらへば

つらぬきとめぬ
玉ぞ散りける

乱れそめにし
われならなくに

花ぞ昔の
香に匂ひける

忍ぶることの
弱りもぞする

恋ぞ積もりて
淵となりぬる

雲のいつこに
月宿るらむ